86　誌上発表　『幼々新書』所引『千金翼方』の検討

堀田　広満，小曽戸　洋，花輪　壽彦
北里大学東洋医学総合研究所

我々は前回の本学会学術大会で小児科全書『幼々新書』（劉昉，1150）が引用する170超の書目について発表した．本書は『千金翼方』（孫思邈，唐）など重要書の条文を多量に収める．その『千金翼方』は元刊前の伝本が存しない故か，孫思邈『千金方』に比し報告が少ない．

今回，『幼々新書』が引く『千金翼方』，元版『千金翼方』各々の内容を比較した．『幼々新書』は宮内庁所蔵の宋版に拠る明抄本を，『千金翼方』は元大徳11年（1307）梅溪書院刊本を底本とした．また条文に不一致を認める場合，『外台秘要方』（王燾，唐）が引く『千金翼方』の内容とも比較した．『外台秘要方』は宋版，静嘉堂文庫本を用いた．

『幼々新書』が引用する『千金翼方』324のうち細注またはそれに準ずるもの44は除き280を検討した．その結果，処方名・条文・生薬構成・修治内容等が完全に一致するもの170（61%），異なるもの110（39%）を認めた．以下具体例を示す．『幼々新書』巻33（以下同様）「治赤眼不問久近方」の場合，『千金翼方』は「近」を「遠」と記す．前者の方が「急性期，慢性期を問わず」という意が通じ，『外台秘要方』も前者に一致した．巻36「治骨疽百方治不差方」は「可於瘡上以艾灸之」とあり難治性の骨疽に対し艾灸を行う治法であるが，『外台秘要方』も「艾」であった．一方『千金翼方』は「艾」を「次」と誤記する．同様な『千金翼方』の誤記は「汚」を「汗」とした巻39中食毒「不変色及堕地不汚」にもある．このように『幼々新書』，『千金翼方』間で差異がある110を『外台秘要方』で照合した結果，『幼々新書』，『千金翼方』に類するものを各々4，17認めた．残る89は判定不能であった（両者いずれにも合致しないもの13，未収載76）．

『千金翼方』の宋臣序文には「其書之伝於今，訛舛尤甚，雖洪儒碩学，不能弁之」とあり当時，伝本の誤りが酷く大規模な改訂が成されたと類推できる．『幼々新書』が宋改前の『千金翼方』伝本を用いたとすれば，今回6割強と多くの箇所で『幼々新書』所引『千金翼方』，元版『千金翼方』の内容が一致した結果と齟齬を来す．つまり『幼々新書』は『千金翼方』の底本として宋版もしくはその伝鈔本を用いたと判断した．また前回述べたが，引用箇所の約6割を占めるほど宋代医籍を積極的に活用した本書の特徴から鑑みるに，『千金翼方』も宋改を経たものが利用されたであろう．

前述する通り，『幼々新書』が引く『千金翼方』の内容が元版『千金翼方』より適切な箇所もあり，『幼々新書』中には『千金翼方』の旧態が部分的に保たれている．つまり『千金翼方』の宋版，元版間で条文に異同が存することになるが，これは宋版『備急千金要方』，元版『重刊孫真人備急千金要方』間に相違があるのと同様で矛盾しない．

一方，宋版『外台秘要方』，『幼々新書』各々が載せる『千金翼方』の内容が大幅に異なる箇所もあり，一概に『千金翼方』条文が宋改時のまま『幼々新書』に残るとも言えない．既報（薬史学雑誌42巻，103，2007）にあるように『幼々新書』の引用内容は厳密で，劉昉が条文を改悪した蓋然性は低いだろう．また『外台秘要方』が引く『千金翼方』条文も宋改時（1069）に手を加えられた可能性があり，本書による照合にも限界がある．元版『千金翼方』の校正後序には「是二書（筆者注，『千金方』『千金翼方』）者，表裏相明至纖至悉無不該備世．又伝『千金』髄者観其文意殊非孫氏所作，乃好事者為之耳．『王道集』『外台秘要方』各載所出，亦未之見似出於唐之末伐」とあり，孫思邈の原意を逸脱する内容と認識しながらも『外台秘要方』が引く『千金翼方』を重要視している．推測の域を出ないが，宋版『外台秘要方』に載る『千金翼方』条文の一部が元版『千金翼方』に混入した可能性もある．

『千金翼方』の宋刊本は伝存しないが，森立之ら『経籍訪古志』が宋版伝鈔本に基づくと指摘する明刊本も存する．今後，検討を重ねたい．